

「東京都無電柱化推進計画(改定)」(素案)に対する主な都民の皆様からのご意見と都の考え方 (1/2)

意見総数14件(お寄せいただいたご意見には複数の内容が含まれていました)

ご意見	都の考え方
【計画に対する意見】	
<p>○最近の地震・台風・大雪・土砂災害等の多発を受け、既存の建設を禁止し、無電柱化を図ることは重要であるが、私道・区市町村道管理者との連携を行い、無電柱整備計画を検討していただきたい。莫大な費用と工期を要する。工期と予算を確保をしながらやっていく必要があるが、予算はどうか、確保するのか。</p>	
<p>○昨年9月に日本に上陸した台風では、西日本や中部地方で電柱がなぎ倒されて、家屋などに被害が発生しました。防災の面から見ると、電柱をなくすことで、台風による被害を少なく出来るのではないのでしょうか。お金もかかるようなので、計画的に行うことは良いことだと思います。特に、身近な区道の電柱をなくしてくれば、安全なまちにつながると思います。</p>	<p>本計画は、第7期の「東京都無電柱化推進計画」について、平成30年3月に策定した「東京都無電柱化計画」の方針と目標を踏まえ、2020年度までの取り組みとして改定するものです。 東京都無電柱化計画においては、「都市防災機能の強化」「安全で快適な歩行空間の確保」「良好な都市景観の創出」を目的に都内全域を対象地域とし、無電柱化を実施していくこととしております。都市防災機能の強化として、重点整備エリアをこれまでのセンター・コア・エリア内から、環状七号線の内側エリアまで拡大するとともに、重点整備路線として区市町村庁舎や災害拠点病院など、災害時や災害復旧の拠点となる施設等を結ぶ路線を新たに位置づけ、重点的に整備を進めてまいります。</p>
<p>○無電柱化については総論賛成です。防災上重要な施設等を結ぶ路線など、整備箇所優先順位を設けて積極的に無電柱化を推進していただきたい。</p>	
<p>○早急に進めるべきです。特に住宅地世田谷区などは早急にやるべきです。メリットは沢山あります。</p>	
<p>○都区内部だけでなく、是非多摩地域についてもしっかりと対応をお願いしたい。</p>	
<p>○無電柱化の推進のためにも、道路の新設の際には無電柱化も同時に進めて頂きたい。</p>	
<p>○目的は美観を優先ではなく、将来の災害についての対策としてほしい。優先的に行う地域は都心ではなく子どもたちの多い郊外の小、中学校のそばからすべき。環七の内側はむしろ最後で構わないはずです。</p>	
<p>○電柱除去後の信号機も電線を除去して地下から電力の供給をしてほしい。除去後の信号機、街灯、標識の電柱の共通化をしてほしい。大きいマンションがある道など、道路の片側だけ電柱があれば良い道は、片側の電柱を廃止してほしい。実施周辺の区道も同時にしてほしい。幅の広い区道や無電柱化された都道で囲まれた区画にある区道など。区道支援が良いと思う。小中学校周辺や、広い区道の無電柱化をしてほしい。 飛田給駅前の無電柱化が綺麗に感じた。無電柱化は相当景観が良くなって安全性もあるので、もっともっと推進してほしい。</p>	
<p>○推進計画が、毎年着実に効果を出していること、遅滞なく進められていることなどが多くの人に伝わるよう、年度毎の目標(これまでの実施)距離、件数・パーセンテージなどの具体的な数値を、素案に記載していただきたい。</p>	<p>これまでの実績として、都道における、平成29年度末の地中化率を記載しております。(P.5) なお、東京都無電柱化計画(平成30年3月)に、昭和61年からの整備状況を記載しております。(P.3)</p>

※お寄せいただいたご意見は、内容の要旨のみを表示させていただいております。

「東京都無電柱化推進計画(改定)」(素案)に対する主な都民の皆様からのご意見と都の考え方 (2/2)

【路線に対する意見】	
<p>○競技会場である「馬事公苑」の周辺の都道(世田谷通り)が計画に含まれていないのが遺憾である。けやき広場前だけでも無電柱化を検討して欲しい。</p>	<p>「東京都無電柱化推進計画(改定)」の素案では、今後10年間の方針や目標を定めた「東京都無電柱化計画」に基づき、事業箇所を選定しております。</p> <p>「東京都無電柱化計画」においては、都市計画幅員で完成している歩道幅員が2.5m以上の都道について、重点整備エリアをこれまでのセンター・コア・エリア内から、環状七号線内側エリアまで拡大するとともに、重点整備路線をこれまでの第一次緊急輸送道路に加え、第一次緊急輸送道路と災害拠点病院等に繋がる都道を新たに位置づけ、重点的に整備を進めてまいります。</p> <p>その他、都市計画道路の新設・拡幅を行う際は同時に無電柱化を行うこととしております。</p> <p>今後とも、皆様からのご意見を参考に、無電柱化の推進に積極的に取り組んでまいります。</p>
<p>○都道11号線(狛江通り)の「狛江市役所から東京慈恵医大第三病院、もしくは松原通り交差点の通りも、無電柱化して頂けないでしょうか。</p>	
<p>○調布市仙川駅周辺では、計画書の「図 2-5 道幅の狭い都道の例」で例示されているよりさらに狭く交通量も多い「東京都道118号調布経堂停車場線」がありますが、車は電柱を避けながらお互いに譲り合って通行し、そこに路線バスが通る、という酷い状態です。新しい区画整理された新規路線での無電柱化も大切ですが、10年後といわず、問題の多い既存路線を再検討し「無電柱化チャレンジ支援事業」のような取り組みをより積極的に推進していただけないでしょうか?</p>	
【技術開発(低コスト化・コンパクト化)に対する意見】	
<p>○無電柱化事業において、工事期間の短縮に向けた検討を是非東京都として進めて頂きたい。</p>	<p>無電柱化事業は、多数の企業との調整や支障となる埋設物の移設、電力・通信の工事等に段階的に取り組むなど、完成までに長期に渡る事業です。また、電線共同溝の整備には多額の費用を要するため、無電柱化が進まない要因の一つとなっています。</p> <p>このため、工期短縮に向けた検討を進めるとともに、道路管理者及び関係事業者が連携してコスト縮減に向けた技術開発に取り組んでいきます。</p>
【その他の意見】	
<p>○1.共同溝の費用捻出のため、都が付帯設備(熱導管やFTTHを共同溝に敷設するなど)貸し出す等のビジネスを検討してほしい。5G時代にはバックホール回線需要が高まるため、携帯電話事業者への貸し出しが期待できる。</p> <p>2.デジタルグリッドルーターなどを用いた直流配電網の需要も考えられ、配電網への新規参入を促し、地中化コストの新たな負担者を発掘する後押しをしていただきたい。</p> <p>3.電柱撤去スペースに街灯新設する場合、例えばLTEや5G基地局、LPWAゲートウェイ併設とし、基地局スペース貸し収入とするなど、共同溝建設費用の新しい回収スキームを検討していただきたい。</p>	<p>ご意見を参考にさせていただきます。</p>

※お寄せいただいたご意見は、内容の要旨のみを表示させていただきます。